



村木厚子さんのこと

厚生労働省の局長逮捕・真実はどこに

ジャーナリスト

元厚生労働省 社会保障審議会委員

小宮 英美

前髪が真っ白に

10月5日、大阪拘置所で村木厚子さんと面会した。村木さんが大阪地検に逮捕されたのが6月14日。その日から数えると実に4か月近くにわたって、拘置所で身柄を拘束されていることになる。面会してみると、村木さんの前髪が真っ白になっていて痛々しく、思わず目を瞞ってしまった。

既に報道されてきたように、大阪地検特捜部によれば、当時、厚生労働省障害保健福祉部の企画課長だった村木さんが、実態のない障害者団体を障害者団体と認める公文書を偽造した結果、郵便の障害者割引制度が悪用されたという。しかし村木さん自身は全面否認

して経済的な基盤を失うとともに、社会での居場所を失うというダブルショックに見舞われ、足元を崩される。こうした人たちに「まずは、給料が下がっても、会社を辞めずに働き続けられる仕組みは作れないか」とアドバイスを貰いに行ったら、夜遅くの勉強会に、全くボランティアで参加して下さった。5回ほど勉強会を重ねた後、若年認知症の人もジョブコーチの対象にするモデル事業を実現させて下さった。出世のためよりも、弱い立場の人のために誠実に働いてくれる人だった。

障害者自立支援法を成立させたいため？

真実はどうなのか、公判で明らかにされていくことになる。しかし、検察の描く構図には、どうしても無理があるように思う。村木さんが公文書を偽造する動機がまったく見当たらないのだ。逮捕当時のマスコミ報道では、「障害者自立支援法についての支持を取り付けるために野党の政治家を取り込みたかった」のが動機と言われていた。しかしあの時期は自立支援法の影も形もなく、障害者福祉に介護保険が使えるようにすることが障害保健福祉部にとつての至上命題だった。

今回の事件でこの案件を村木さんの上司に依頼したといわれている政治家は、民主党の国会議員だが、この議員は障害者や介護の政策とは全く関係がない。また当時民主党の障

のままである。当時村木さんの周囲にいた多くの人たちも、当時の厚生労働省障害福祉部の置かれた状況や人間関係を振り返ってみても、村木さんが公文書の偽造を指示することなど全く考えられないという。当時の障害保健福祉部を、私も日常的に訪れ取材していたが、今回の検察の指摘は、荒唐無稽と思われることばかりである。だから村木さんを励ますために拘置所を訪ねた。その私の目に白髪は痛々しく、改めて様々な疑問と怒りがふつふつと湧いてきた。

村木厚子さんってどんな人？

渦中の人・村木厚子さんは、障害者雇用や働く女性の地位向上、少子化対策などで大き

害者政策について熱心に活動していた別の国会議員は、何とかして介護保険を障害者にまで導入しようと躍起になっていた。つまり厚生労働省と同じ方向を向いていたのだ。不正をしてまで民主党と繋がりをつける動機は全く見当たらない。障害者自立支援法に民主党が反対を打ち出したのは、1年も後のこと。そうすると村木さんが不正をしてまで公文書を偽造する動機は全く見当たらない。権限のある当事者が文書を偽造するというのも不思議な話だ。

「上司に評価されたいため」という子供のような理由を持ち出す人もいるが、旧厚生省主体の障害保健福祉部にあって、村木さんは数少ない旧労働省の出身。村木さんの人事評価も旧労働省主導で行われていた。旧厚生省出身の上司におもねらなければいけない理由は存在しない。私の知る村木さんは穏やかな人でありながら、おかしなことがある時には、はつきり指摘する人だった。

村木厚子さんを支援する会の発足

逮捕直後、村木さんの無実を信じ、支援したいという人の輪が自然発生的に広まり、「村木厚子さんを支援する会」が発足した。メンバーは現場の福祉関係者など、彼女と一緒に仕事をした人たちで、村木さんとご家族をどのように支えたらいいのか、世論に何を訴え

く日本社会に貢献した。障害者雇用・福祉の分野では、福祉作業所などでは1か月に1万円前後の給料しか得られない障害者が多い中で、何とか一般企業に雇ってもらい、私たちと同じように最低賃金が適用される環境で働いてもらおうと、村木さんは様々な施策を打ち出してきた。一般企業で働けば最低賃金が適用されて10万円近い給料が得られ、自立できるようになる。障害のある人を特別な場に囲いこみ、お情けでお金を与える福祉ではなく、社会の中でできるだけ対等に生きていかれるようにする自立支援に心を砕いて来た。

個人的にも村木さんには、大変お世話になった。若年認知症の人の支援策として、「何か前向きなことができないのか」と家族の会の方や研究者の方たちに相談された時のこと。若年認知症は働き盛りの男性に多いが、失業

たらいいのか、検討した。その結果、まずは村木さんの無実を訴えようということで、7月9日、厚生労働省記者クラブにおいて、記者会見を行った。「無実の罪で囚われている村木厚子さんの解放を求めるとして、堂本暁子さん（前千葉県知事）・住田裕子さん（弁護士）・田島良昭さん（社会福祉法人理事長）の3名が1時間に渡って会見し、この事件で検察の描く構図がいかに不自然か訴えた。

主要マスコミ各社すべてが取材に現れ、新聞各紙はインターネット版で会見の様相を紹介、テレビ各社はおそらく初公判の時に放送するためにだろう、全社が会見を撮影していた。

また「支援する会」は、インターネットにホームページも開設、拘置所の村木さんの様子を刻々と伝えるとともに、支援のメッセージを掲載することになった。

(http://www.aalinkai.or.jp/muraki_sien/index.html)
裁判費用などを賄うために、カンパのための口座も開設した。

【振込先】

郵便振替 017904451910

村木厚子さんを支援する会

【振込先】

親和（しんわ）銀行 国見（くにみ）支店

普通預金 口座番号 1226412

さらに面会の人が多くなりしないう交通整理し、村木さんを信頼する人が次々と拘置所を訪れ、彼女を励まし、支えられるよう仕組みを整えた。

拘置所の村木さん

これまで大勢の人が拘置所をおとずれ、面会の人が絶えたことはない。村木さんのかつての仕事ぶりを知り、いろいろお世話になった人の中には、村木さんを前にしてポロポロ涙を流してしまう人（特に男性）も多かったとか。

拘置所を訪ねたのは、筆者は実は2回目。1回目は、接見禁止が解除されて早々の7月16日だった。逮捕から1か月、ようやく家族との面会も許され、その3日後だった。面会に訪れた筆者に対して、村木さんは開口一番「お騒がせしています。お忙しいのに遠いところをすみません」と、大変な境遇にあるにもかかわらず、こちらを気遣う言葉をかけてくれたが、さすがに目には時々涙が光った。こちらは「とにかく今回の件でみんな怒っていて、みんなが支えているから弱気にならないで下さい。諦めちゃえばラクになる、なんて考えは絶対間違っているからね。」と伝えると、「もちろん大丈夫」としつかり答えた。こちらも辛いので、久しぶりに厚生労働省の廊下でばったり会ったような、努めて明るく屈託のない感じで話した。

2回目に会った時、前髪が真っ白になっていたことに心が痛んだのは、先にも書いたとおり。深刻な話よりは、軽い話をと、自分が

厚生労働省も異例の対応

今回の事件で周囲の人たちが如何に違和感を覚えたかは、厚生労働省の異例づくめの対応を見ても分る。まず舛添要一厚生労働大臣（当時）は、村木さんの逮捕直後、「有能な職員だったので、極めて残念。彼女は働く女性の希望の星だった」と、身内が逮捕された場合の大臣の発言として、極めて異例な、同情的な感想を述べた。また江利川毅事務次官（当時）も、「村木さんはいろんな方面から評判が良く、彼女が『やっていない』というなら信じてあげたい」と官庁トップとしては異例の発言。今年7月の退任の時の挨拶でも、「心残りの一つは村木局長の逮捕・起訴である。一刻も早く真実を明らかにしてほしい。そしてもし無罪ということであれば、すぐに職場復帰して欲しい」と公の場で堂々と発言している。

今後の展開

10月の初めに保釈請求がなされ、大阪地裁がこれを認めたため、ようやく村木さんとゆつくり会えるのか、と明るい気持ちになった。しかし大阪地検が準抗告した結果、大阪高裁に判断がゆだねられ、結局、保釈は認められなかった。新聞各紙が「保釈へ」と報道し、

差し入れた蓮の花の写真集について触れた。実際、心が洗われるような美しい写真集なのだ。『みんなが囚われの身の村木さんが観音様のように見えた』と言うので、『観音様には蓮だ』と思つて、爆発的な人気の蓮の花の写真集を送ったんですよ。」という、村木さんは恥ずかしそうに笑っていた。

「それにしても、組織人なら誰でも実感できることだけれども、事件のあつたとされる時期は、村木さんと上司の部長と一緒に仕事するようになって、まだ半年。普通どんな人でも『わけありだけ頼む』はい。分かりました。』なんて、言えるような関係ではないですよね。」と言うと、間髪を入れずに、「止めることはあつてもね」と、村木さんが応じた。

人質司法？

村木さんが身柄を拘束されてから、4か月以上になる。本人の心労を思うと痛ましく、ため息ばかりが出る。裁判員制度が始まり、その説明では繰り返し「推定無罪」という言葉が使われる。しかし今回の件では、証拠隠滅の可能性も全くないとしか思えない人物が、全面否認をしているためか、取り調べはとつとつに終わっているのに、いつまでも身柄を拘束されている。真夏でも冷房もないという環境で、家族に会うにも知人に会うにも一日に10分しか許されないという、過酷な環境で過

期待が膨らんだ分、関係者の落胆も大きかった。ご家族からの連絡では、今回の公判前整理が11月12日におこなわれる。ここで保釈が実現しなければ、そのまま公判突入ということになる。初公判は来年1月27日、以後週1、2回のペースで証人尋問が行われるということである。結審は3月か4月と思われる。

筆者は友人から、「でも、『やったか、やらないか』は、本人しか分からないじゃない？なぜ、やっていないと断言できるの？」ときかれることがある。確かに最終的には本人しか分からない。ただ、自分はその当時、この事件の舞台になった厚生労働省の障害保健福祉部の空気を肌で感じて知っている。逮捕された村木さんの人柄・仕事ぶりだけではなく、事情聴取に応じた関係者たちや当時の人間関係のことも知っている。テレビ各社のインタビューに応じ、村木さんについて悪い印象を語っていた人物の利害関係も知っている。全体から判断して、どうしても村木さんが関与したとは思えないのだ。さらに村木さんは、日本の障害者福祉や、少子化問題、働く女性の地位向上など、さまざまな分野で、なくてはならない、大切な人だ。

私は逆に聞きたい。村木さんに一度も会ったことがないし、当時の障害保健福祉部を全く知らないマスコミ関係者たちが、検察から流れてきた情報のみを根拠に、判で押したように流す画一的な記事や映像が、そんなに確かなものなのだろうか？ 足利事件の例もあ

ごすことを余儀なくされる。「推定無罪」どころか、「全面否認を続けるならば、懲らしめて弱気にさせて、白状させるまでは許さないぞ」とでも言わなければならない、異常な状況に置かれている。しかもご本人がお金を一銭も受け取ったわけでもないことは、起訴状を読んでも明らかである。ご家族も「これでは人質司法ではないか」と訴えている。

また、そもそも今回の事件に村木さんが関与したと証言した3人のうち2人は、当時の上司と部下、両者ともその証言により、自分が罪を逃れ有利になる立場にいる。このうち部下の方は、当初は「自分一人でやった」と証言していたと報道されている。「村木さんから障害者団体の認定について報告を受けた」と証言したと報道されている上司は、その後、周囲から孤立し、厚生労働省退職後に勤めていた職場から辞職を余儀なくされた。もしこの二人が実際にこのように証言していたとしても、この二人の証言と村木さんの全面否認と、どちらを信用するかと問われれば、答えは簡単には出ないはずだ。しかしながら大阪地検特捜部は他の関係者の話をもとにシナリオをこしらえる一方、村木さんの話は最後まで一切聞かずに、事情聴取をしたその日に本人全面否認のまま逮捕してしまった。予断とメンツが先行してしまった結果ではないだろうか。

ではないか。検察の情報に符合する証言だけを選び出して語られた「村木厚子」の人物像、例えば「次官コースから外れたことなく、ついやってしまったのではないか」などという人物像は、本人とは全く別人であった。覆面を条件にいい加減な話を垂れ流すのは、アンフェアだと思う。

日本は法治国家だから、あとは裁判が行われるのを待つばかりである。公正な裁判が行われ、真実が明らかにされ、村木厚子さんの無実が晴らされる日が来ることを、一日千秋の思いで待っている。

